

日野市子どもの生活実態調査結果【概要版】

＜令和2年度：調査の実施及びとりまとめ作業を行なった＞

＜令和3年度：集計・分析作業を行なった＞

2021年10月 セーフティネットコールセンター

1. 調査目的

子どもの貧困対策を総合的に進めるための「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針（平成29年度～令和3年度）」の見直しをするための資料とするために、平成28年度に東京都により実施された「東京都子供の生活実態調査」をベースに子どもと保護者の生活の実態を把握したものです。

2. 調査概要

◆調査対象：市内在住小学5年生、中学2年生、16～17歳（高校2年生学年相当）の児童・生徒とその保護者

◆調査時期：令和3年2月18日～3月1日

◆調査方法：無記名アンケート方式により、日野市立小中学校に通学児童・生徒とその保護者は学校を通して行い、高校2年生相当世帯については、郵送で調査を行った。回答は、アンケート用紙及びLINE回答により回収した。

◆アンケート配布数と回収数

対象	小学生		中学生		16～17歳	
	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者
対象者数	1,587	1,587	1,636	1,636	1,701	1,701
学校配布数	1,572	1,572	1,437	1,437		
郵送数	15	15	199	199	1,701	1,701
総回収数	1,276	1,238	1,100	1,125	499	506
総回収率	80.40%	78.00%	67.20%	68.80%	29.30%	29.80%
総回収数のうちLINE回収数	83	114	62	88	60	68

◆調査項目

①子どもの生活（食、所有物、活動、子どものための支出）、子どもの学び、子どもの人間関係と居場所、子どもの自己肯定感、子どもの健康状態など

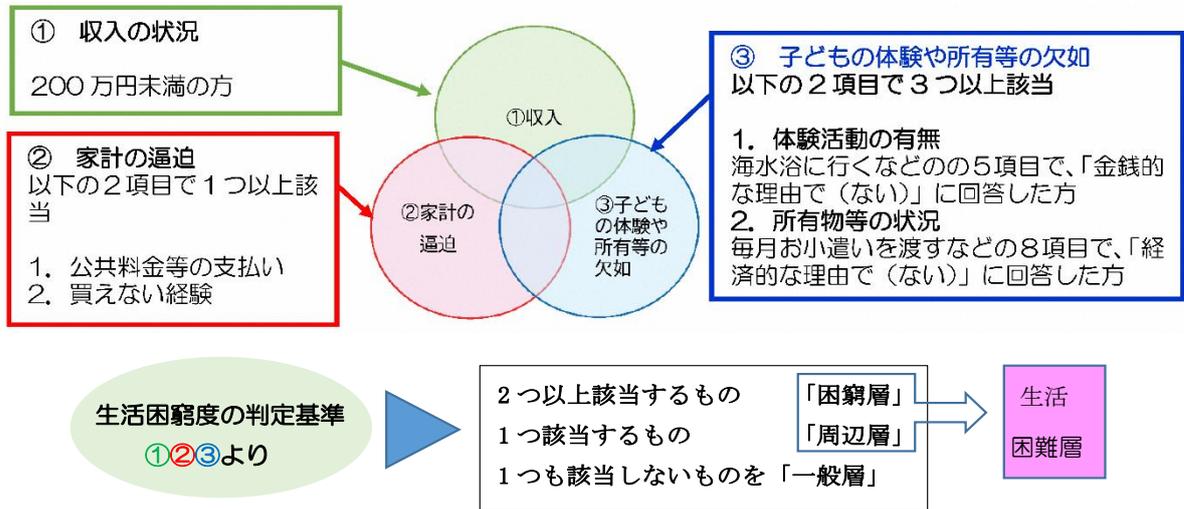
②保護者の状況（健康状態、生育環境、子どもとの関係、相談相手の有無など）

③子ども質問数：小学生46問、中学生46問、16～17歳48問

④保護者質問数：小学生保護者55問、中学生保護者55問、16～17歳の保護者53問

3. 貧困の度合いと区分

- ・日野市における子どもの貧困度合いを判定するため、「生活困難度」という指標を使用した
- ・「生活困難度」は、「①収入」「②家計の逼迫」「③子どもの体験や所有等の欠如」という3点から導き出している

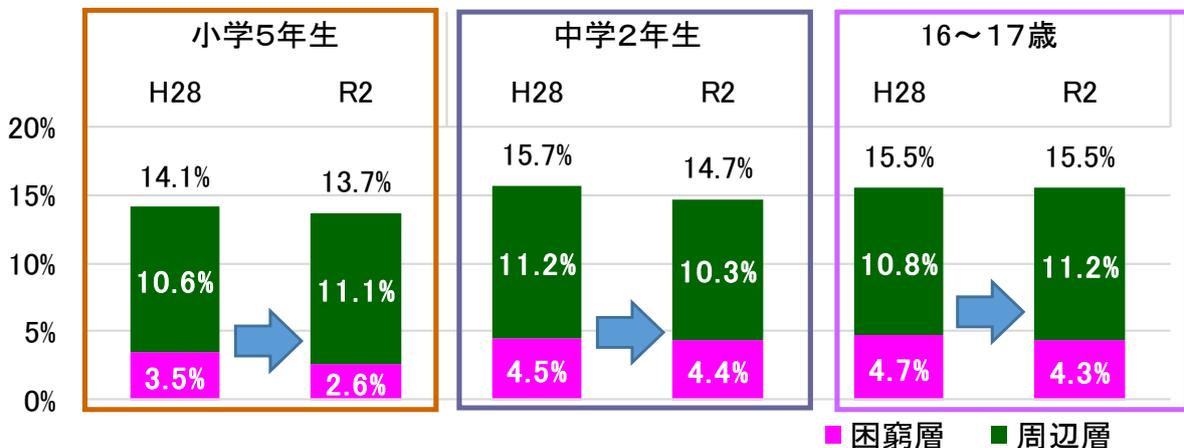


4. 生活困難層の割合

日野市の生活困難層状況

項目	小学生	中学生	16~17歳
①収入の状況	4.9%	5.1%	5.1%
②家計の逼迫	8.2%	9.8%	8.1%
③子どもの体験や所有等の欠如	11.5%	5.4%	7.2%

生活困難層の割合（H28の日野市のデータとの比較）

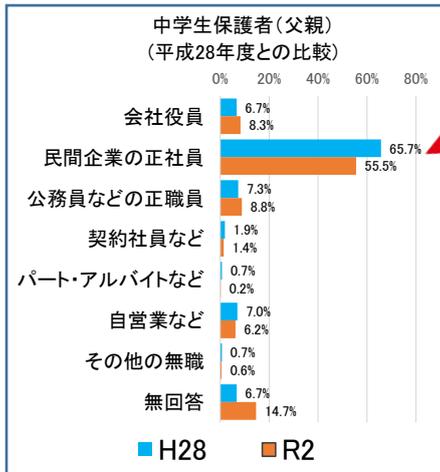


小・中学生はやや低下、16~17歳は横ばい

5. 結果から見た主なもの … p20、34、36、40、61

■ 父親の就労状況… p20

- 平成 28 年度調査と比較すると、いずれも「民間企業の正社員」が減少しているのが特徴



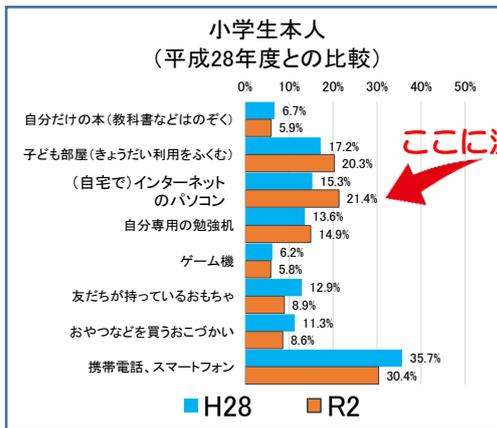
ここに注目!

ポイント

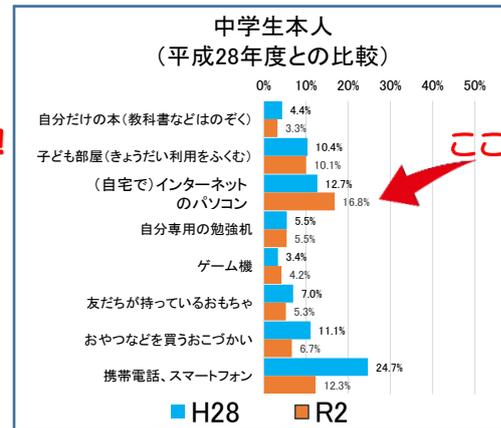
父親の正社員率が減少
コロナの影響を受けやすい

■ 必要な物品の所有状況… p34

- 欲しいが、持っていない人の割合



ここに注目!



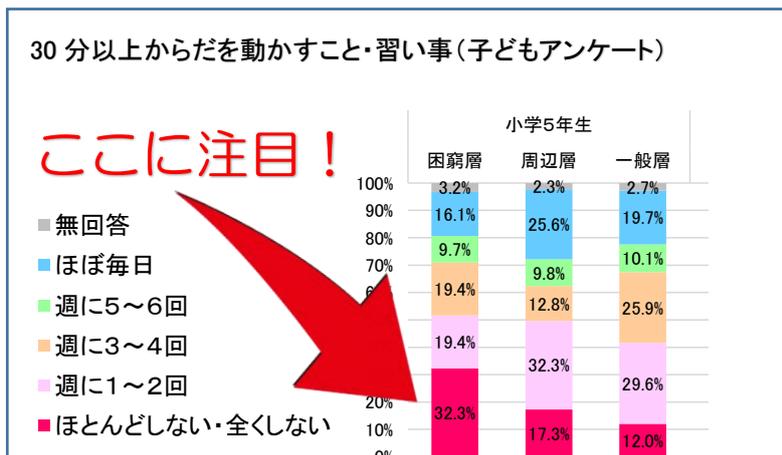
ここに注目!

ポイント

インターネットPCが小・中学校で増加
オンライン授業など学校や塾での必要性が高い

■ 30分以上体を動かさない… p36

- 小学生の困窮層で「ほとんどしない・全くしない」が3割を超えており、一般層の3倍近くとなっている



ここに注目!

ポイント

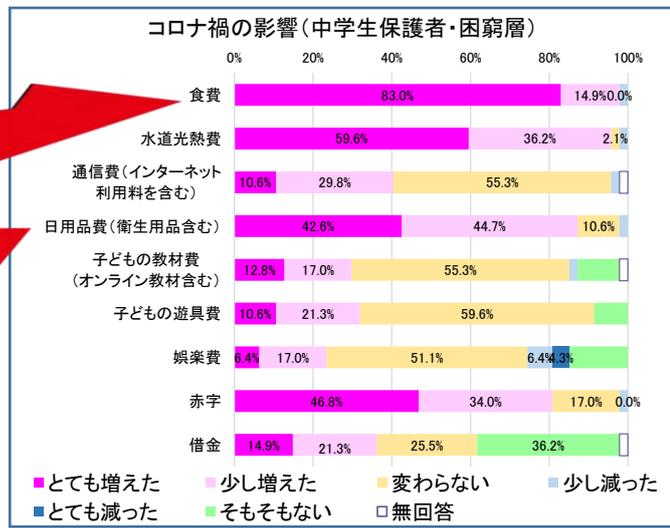
コロナ禍における外出の自粛
の影響による運動不足が考えられる

■ コロナ禍の影響…p40

・家計の出費が増えている

ここに注目！

ここに注目！



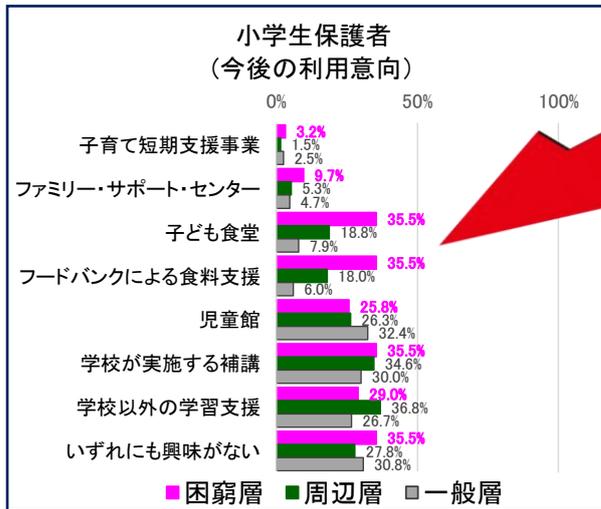
👉 ポイント

家計状況は、困窮層で食費・水道費、日用品目(衛生用品含む)が増加している家で過ごす時間が増えたためと考えられる

■ 各支援制度の利用意向…p61

・フードバンクによる食料支援の利用意向が強い

ここに注目！



👉 ポイント

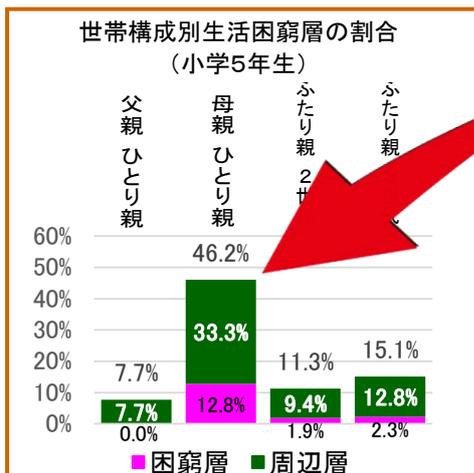
認知度は増加しているものの、情報が行き渡っていない
食の支援の利用・希望は増えている

6. ひとり親家庭の状況…p10、14、15、17

■ 生活困難層は母子家庭の割合が大きい…p10

・生活困難層と世帯構成との関係では、「母親(ひとり親)」の割合が高い

ここに注目！



👉 ポイント

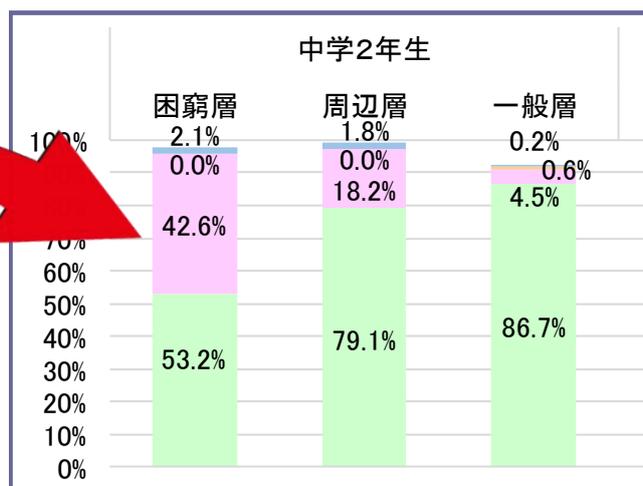
前回の調査と変わらず、母子家庭へ支援が必要

■ひとり親になった経緯は離婚が多い…p14

・特に「困窮層」は、「離婚（別居中を含む）」の割合が多い

生活困難度別 婚姻の状況（保護者アンケート）

ここに注目！



ポイント

離婚が困窮の原因のひとつとなっている

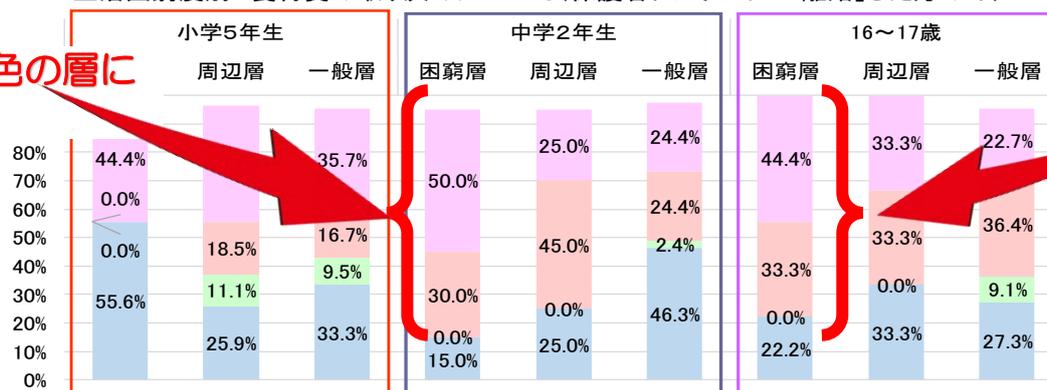
■結婚している（事実婚を含む） ■離婚（別居中を含む） ■死別 ■未婚・非婚

■養育費の取り決めをしていない家庭が多い…P15

・中学以上の「困窮層」は、「養育費を受け取っていない」割合が多い

生活困窮度別 養育費の取り決めについて（保護者アンケート 「離婚」した方のみ）

ピンク色の層に注目！



ここに注目！

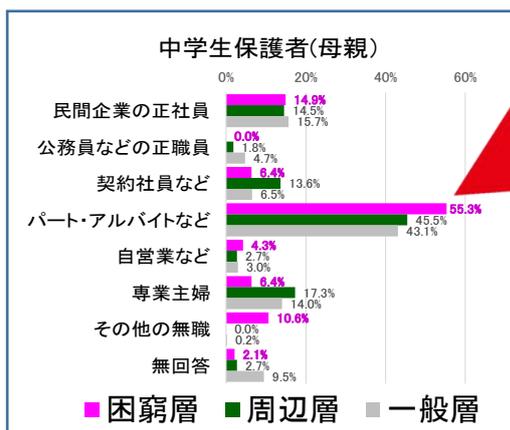
■養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない ■養育費の取り決めをしているが、受け取っていない
 ■特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている ■取り決めをしており、養育費を受け取っている

ポイント

法律相談の奨励などといった相談につなげる支援が必要

■母親は非正規就労が多い…P17

・母親の就労状況はパート・アルバイトが多い



ここに注目！

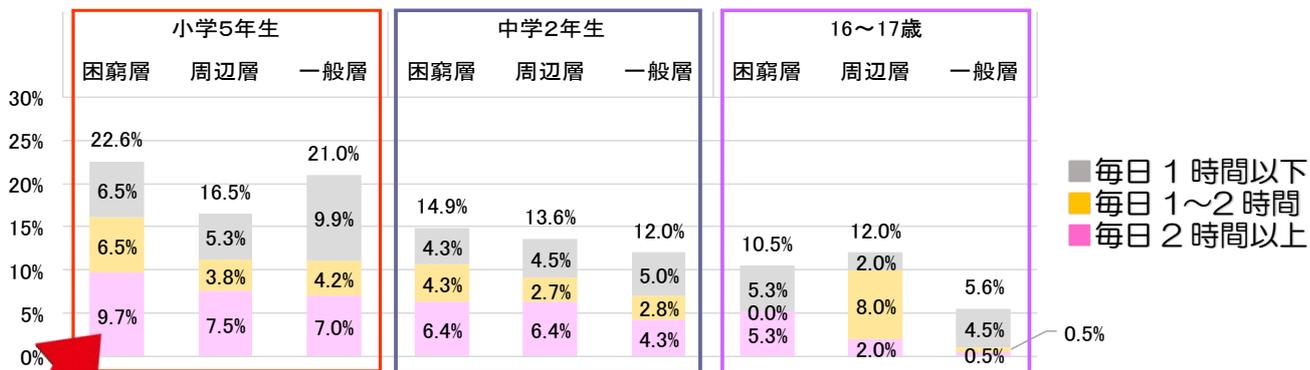
ポイント

コロナの影響を受けやすい非正規職員が多い

7. ヤングケアラーの状況… p31

■ H28年度の前回調査との比較ではきょうだいや祖父母などの介護をする人の割合は「減っている」が、生活困難層ほど割合は高くなっている

毎日きょうだいや祖父母など介護する人の割合



ここに注目!

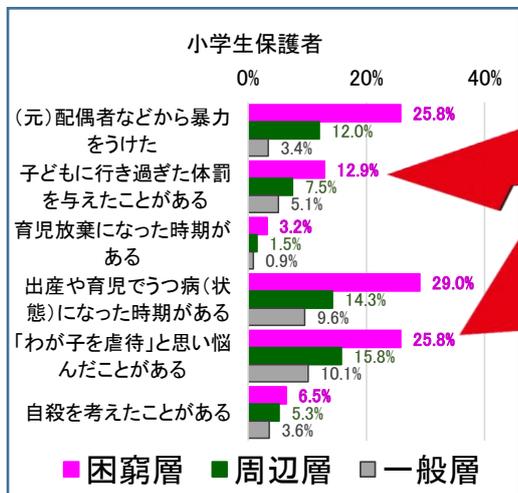


ヤングケアラーの存在を見逃さず、相談体制の整備や関係機関との連携などを進めていく必要がある

8. 虐待等の状況… p58、59

■ H28 前回調査との比較では、虐待に関連する「子どもの行き過ぎた体罰を与えたことがある」、「育児放棄になった時期がある」、「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」、「わが子を虐待していると悩んだことがある」の割合は減っているが、生活困難層ほど割合が高くなっている

子どもが生まれてからの経験



ここに注目!



生活困難層ほど虐待のリスクが高くなっている



子どもたちの将来が、生まれ育った環境に左右されることのないように、子どもたち一人ひとりの夢や希望を実現するために本調査を活用します